

読書感想文を書こう

本との出会いは人との出会いに似ています。心から感動する本に出会ったとき、私たちには新しい世界が広がります。今までの自分を振り返り、こうありたいと思うようになることもあります。読書感想文は、そういった感動を書き留め、あなた自身の心の成長を記すものなのです。

1 本を選ぼう

読書感想文の第一歩は本選びです。読んだ本の中から最も感動が大きかった本について書いたり、教科書にある推薦図書や課題図書に挑戦したりするのもよいでしょう。

〈読んだ本〉

--	--	--	--

〈選んだ本〉

↓ ↓

--

〈選んだ理由〉

2

書くための材料を豊富にするために、感じたことや考えたことをメモしたり、文章の一部を書き抜いたりしながら読もう

*付箋を使うと、まとめるときに便利である。
*本の内容と向き合い、何度も読み返そう。

3 2のメモを手がかりに、「構想メモ」をまとめよう(別添)

*特に「6・7・8」は主題に関わる大事な部分である。
詳しく丁寧に書こう。

4 「構想メモ」をもとに、中心となる感想を決め、一文にまとめよう

- 中心のしぼりかた
- ① 作品のテーマについて自分はどう思うか。
 - ② 主人公の生き方、考え方についてどう思うか。
 - ③ 作品からどんな発見をしたり、新しい知識を得たりしたか。
 - ④ どんな疑問を持ったか。
 - ⑤ 自分の周囲の社会・自分の生活とどういう関わりを持っているか。
 - ⑥ 自分も同じような経験をしたことはないか。

〈選んだ番号〉

--	--	--

〈中心となる感想〉

5 下書きをしよう

- 1 「構想メモ」を具体的に深めながら、原稿用紙に書き進める。
- 2 項目ごとに、より詳しく原稿用紙に書いていく。別々の原稿用紙に書き、後で並べ替え、つなげてみてよい。
- 3 一度に完成を目指さず、部分ごとに書いていこう。

書き方のポイント

- ① 自分の体験を書く。「作品」と「自分の体験」とを比較し、自分自身の心が作品と出会うことによって、どう変化したのか、ここを書き込むことがポイント。
- ② 自分と関わりのある問題を発見し、その問題を真剣に考えて書くことが大切。
- ③ あらすじは最小限にとどめ、主題に直接関係ないものは切り捨てる。

6 下書きした文章はさらに推敲を重ね、よりよい文章へと練り上げてから清書しよう

- ① 次の例を参考に、書き出しと結びを工夫してみよう。

書き出し	結 び
<p>・「砂漠が美しいのはどこかに井戸を隠しているからだ」王子様のこの言葉が、読み終えた私の心に深く残った。</p>	<p>・「こだわりのない、素直な優しい眼で物事の本質をみきわめていきなさいー」星の王子様」の声が聞こえてくるような気がするのだ。</p>

「ヘレンケラー」

・私は目を閉じ耳をふさぎ、口を結んでみた。一歩また一歩。

「老人と海」

・広い広い真つ青な海がいつまでも続いている。

・心の花がしおれている人を、きれいな花になおせるような人になりたい。深い感動に包まれながら私はそう自分につぶやいた。

・広く青い海原にぽつんと浮かぶ小舟。老人はまた新たな闘志を燃やして、海に向かうであろう。その姿が私の脳裏に鮮やかに浮かんでくる。

「風をつむぐ少年」

・人間はここまで変わる事ができるのか。この本を読んだ私は最初そう思った。

・素敵な風をおこしてみたい。いや、おこしてみよう。今日でもいい明日でもいい。明るく美しい心を持てば、きっとできるはずだ。そう思って明日が楽しみにになった。

- ② 題名を工夫しよう。

感想文には、「○○を讀んで」という題名が圧倒的に多い。せっかくここまで工夫し苦勞して書いた感想文なのだから、読後の感動が伝わるようなタイトルを工夫してみよう。

- (例)
- ・本当の幸せとは (「銀河鉄道の夜」)
 - ・人間として (「沈黙」)